

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	ものづくり製品開発等支援事業(補助金)	会計	一般会計	事業No.	507	施策順No.	13-018
		事業種別	政策・重点	予算科目	7-1-5-10-33		
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり	課等名			工業課		
施策	13 地域内産業の多様な連携	事業期間	開始	22	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	新たに製品(試作)開発しようとする企業及び企業グループ						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		企業及び企業グループ数				5	5	
	意図	新たな製品・要素技術を開発して、企業の安定成長と次世代を担う産業づくりを目指す						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	製品(試作)開発された件数				5	7	5	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	短期間の中で目標を上回る製品が開発された。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	新たな製品(試作)開発に複数の企業が共同で取り組むグループに対して、製品(試作)開発等の取り組みに要する経費(すでに事業化され収入を得ている事業の費用や生産を目的とした機械設備の導入に要する費用等、営利活動に繋がる経費は除く)の一部を本市が補助することによって、当地域をけん引する製造業の国際競争力の強化と次世代を担う新産業の創出を促進し、製品の高付加価値化及び新分野進出等の円滑化を図る。		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 ものづくり製品開発等事業補助金交付要綱の策定と公募 2 地域内企業への周知 3 補助金審査委員会の開催 4 企業・グループへの補助金交付	1 補助金申請件数 2 周知企業数 3 開催回数 4 補助金交付件数	1 16件 2 350社 3 1回 4 7件
	23年度実施計画	1 地域内企業への周知と公募 2 補助金審査のための委員会の開催 3 企業・グループへの補助金の交付	1 補助金申請件数 2 審査委員会開催件数 3 補助金交付件数

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		5,000	3,890	5,000		
計(A)		5,000	3,890	5,000		
正規職員所要時間			200			
臨時職員等所要時間			50			
人件費計(B)			769			
トータルコスト A+B			4,659			

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> <li>国の補助制度は、申請から報告までの手続きが複雑で、期間等に制限もあり申請しづらい状況にある。それを解消できるような市独自の補助金制度を新たにつくってほしいという企業からの意見も多い。(20年 工業会)</li> <li>リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の開通を踏まえ、首都圏や海外との交流を積極的に取り組まれたい。(H20 産業経済委員会より 決算認定提言書)</li> <li>新たな経済活動の創出のために、特定団体との連携だけでなく、新しい発想を持った団体等との連携も模索されたい。(H20産業経済委員会 決算認定提言書)</li> </ul>
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	地域内産業の多様な連携により新たな経済活動を創出する	施策の成果指標又はムトス指標	連携して取り組んでいる研究等の数(件)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	・新製品や新技術開発が促進されれば、企業体質の強化と新産業の創出につながり、産業活動が活発化した。		
	後期に向けた課題	・より大きな経済活動にするためにも、ものづくり開発支援だけでなく、マーケティング支援も連動する形で取り組む必要がある。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・よりビジネスに結びつくために、オーガナイザーやコーディネーターが、事前に相談・指導を行ってきた。		
	後期に向けた課題	・採択された案件については、製品開発段階で常時フォロー出来るように、担当コーディネーターを配置していきたい。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	・交付額確定時の確定検査を正確に行なっている。		
	後期に向けた課題	・確定検査を正確に行なう。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	・1/3以上は企業が負担している。開発資金が捻出できず開発できない中小企業を市が一部を援助して支援することは必要である。		
	後期に向けた課題	・厳しい財政の中で補助金を交付し続けるべきか、議会や市民に対して理解が得られるかが課題である。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	①中小企業は、研究開発や技術の高度化に取り組んでいる。 ②行政は、企業OBによるコーディネーターを配置して、研究開発や技術の高度化等のサポートを行っている。また、研究のための施設も提供している。		
	後期に向けた課題	・当地域には研究開発型の中小企業が少ないため、LED防犯灯製品のように、いかに行政や支援機関も加わって成功事例を多くつくるかが課題である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	・リーマンショック以降産業構造が大きく変化する中で、中小企業の意識も変化し、企業単独もしくは共同で、新産業の創出を目指す動きが活発になってきている。そのタイミングでこの事業を新規に立ち上げたことにより、中小企業の開発及び投資意欲をより高めることができた。		
	後期に向けた課題	・要綱作成等に時間を費やしたため、事業実施期間が短期間となってしまったので、年度当初から公募して事業実施期間を長期間活用できるようにしたい。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要がありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要がありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--